

### 会の理念

- 一、イヌワシの声・訴えを真剣に聴き、行動する事。
- 一、その行動は、人間の都合を一切の理由とせず、イヌワシおよびその環境が一番強く求めていることは何かを考え、その環境づくりを目指すものである事。
- 一、我々の活動により、日本に棲むイヌワシが安定的な生息環境を獲得する事。そして、その手法等を世に広める事。
- 一、その活動を山間部で暮らす人々との連携により進め、地域社会に何らかの形で貢献することを目指す事。
- 一、困難多数と考えられる目標であるが、決してあきらめない事。



一般社団法人

# イヌワシ保護協会

GEPA(Golden Eagle Protection Association)



イヌワシ保護協会は、餌不足等で絶滅の危機にあるイヌワシの生息地改善に地元の皆さんと協同で取り組み、イヌワシと地域の元気を取り戻すことを目的に活動しています。



Copyright © 2021 GEPA. All rights reserved.



<https://inuwashi-hogokyokai.jp>

一般社団法人

# イヌワシ保護協会

Golden Eagle Protection Association

事務所：〒930-1321 富山県富山市大山上野 615 番地 10

メール：info@inuwashi-hogokyokai.jp

ご入会・ご寄付を希望される方は、下記HPよりご登録お願いいたします。  
なお、書面による登録を希望される方は、一度お問い合わせ頂きますようお願いいたします。

<https://inuwashi-hogokyokai.jp>



GEPAは、人と野生動植物が等しく健全に暮らせる社会を目指します。  
GEPAは今後、公益社団法人を目指して、活動していきます。

## 1. イヌワシについて

イヌワシは、国の天然記念物であり、環境省のレッドリストでは絶滅危惧 I B 類 (EN) に指定されています。これは、「近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの」と位置付けられているということです。

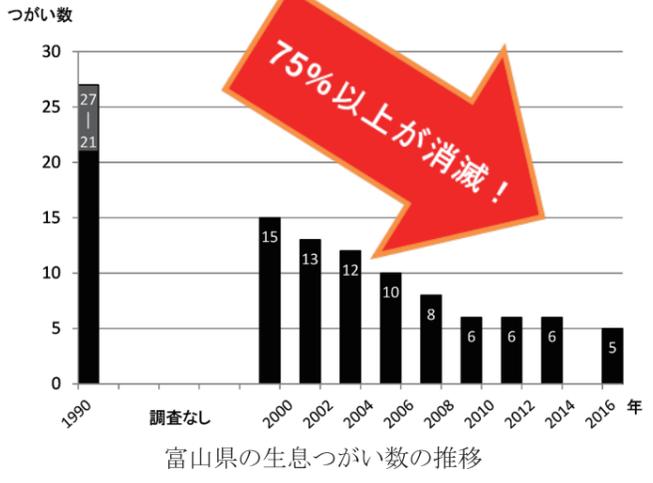
イヌワシ保護協会の調査では、ここ 20 年ほどの間に、北陸を中心に観察している 34 ペアのうち、12 ペアが姿を消しました。そのほとんどが富山県で、1990 年頃 21 ペア以上いたつがいは、現在 5 ペアにまで激減しています。全国で調査をする日本イヌワシ研究会の発表でも、過去推定 340 ペアいたうちの 120 ペアが消滅したとしています。また、1980 年代前半には、50% を超えていた繁殖成功率（幼鳥の巣立ちを確認したもの）が近年では、多くの年で 10% 台にまで落ち込んでいます。

この生息数や繁殖成功率の低下の最大の理由が、餌不足によるものです。よって、この餌不足を解消できなければ、日本でイヌワシを守ることはできません！

## 2. イヌワシ保護協会…なぜ、イヌワシを？

まずは、イヌワシが何より好きだから！！イヌワシが舞う山は、いつ見ても美しい！そして、その素晴らしい環境はいつ行っても心と体を癒してくれる！そんなイヌワシ舞う山をいつまでも残したいですね！？

そして、イヌワシは、日本の森林生態系のトップに君臨し、食物連鎖の頂点に居る生き物です。すなわち、イヌワシが棲む山は、豊かな環境がそこにあることの証。このイヌワシを中心とする生態系の上位種を失うことは、この豊かな環境が崩れてきたという事。生態系が壊れ、バランスが崩れてしまうと様々な部分で人間にも影響を及ぼすことになります。



富山県では、全国データのペア 3 割消滅よりもさらに深刻。ここ 30 年ほどで 7 割以上のペアが姿を消した。



広葉樹林上で探餌するイヌワシのつがい



イノシシに踏み荒らされた収穫間近の田んぼ

イヌワシの獲物は、ノウサギ、ヤマドリ、ヘビ類が上位 3 種です。しかし、時にはニホンジカやイノシシを食べることもあります。ニホンジカやイノシシは近年、人里に下りてきて、農業や林業に大きな被害を出しています。時には、人身被害まで！しかし、ニホンオオカミが絶滅した今、こうしたシカやイノシシを捕食できるのは、ツキノワグマとイヌワシだけ。イヌワシがこれらを捕食している数は、微々たるものかもしれませんが、ハンターさんの頭数調整に力を貸してくれるという部分でもイヌワシの人への貢献度は高いのではないのでしょうか？



ニホンジカに芽先を食べられたイネ



ニホンジカを運ぶイヌワシ

## 3. イヌワシ保護協会の活動

イヌワシ保護協会の目的は、絶滅の危機にあるイヌワシの安定した生息や繁殖成功率の向上・過去生息していた地域でのペア復活などに寄与し、山岳地で暮らす人々の生活も一緒に活性化させること。ただし、イヌワシの狩場整備地においては、完全「イヌワシ第一主義」。人間の都合は全て排除し、イヌワシの望む環境の整備を徹底して行います！

イヌワシ保護協会 (GEPA) の活動は、調査対象ペアの多くが生息する北陸 3 県とその周辺県（富山・石川・福井・新潟・岐阜）を当面の対象地と考えています。具体的には、北陸 3 県とその周辺県でイヌワシが餌不足・狩場不足で困っているペアを対象に、その対象ペアが狩場として利用する可能性が高い土地を選定し、森林の伐採や広い林縁、草地を創ります。土地の所有者さんや地域社会との協力が前提ですが、場合によっては土地の購入や借り上げも想定しています。同時に、イヌワシの狩りを容易にするために、伸びたヤブや草地の刈払いなども行い、ノウサギを中心とした小中動物にとって棲みよい環境を整備します。



伐採地を見下ろし高木から獲物を探すイヌワシ